

(様式 5)

第 三 者 評 価 報 告 書

第三者評価項目構成

・理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所名	グループホーム布施の郷			
事業所番号	2873600361			
住 所	たつの市揖西町竹原1283			
事業所対応者	役職	管理者	氏名	福森ミキエ
自己評価実施日	平成 20年 3月 12日			
評価機関名	特定非営利活動法人 日本福祉文化研究センター			
第三者評価実施日	平成 20年 3月 29日			
評価結果確定日	平成 20年 6月 日			
評価調査者	調査者番号	HC06-1-0050	氏名	原口 美佐代
	調査者番号	HC06-1-0051	氏名	喜谷 和子
	調査者番号	HC07-1-0033	氏名	杵 千秋

項目番号について

- ・第三者評価は30項目です。
「第三者」の列にある項目番号は、第三者評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。
- ・番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目への取組状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法について

- 「取り組みの事実」
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
- 「取り組みを期待したい項目」
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
- 「取り組みを期待したい内容」
「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
- 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者を兼ねる場合は、その人を指します。
- 職 員 = 管理者、常勤職員、非常勤職員及びパート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
- チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、地域包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

【評価実施概要】

事業所番号	2873600361
法人名	三光建設株式会社
事業所名	グループホーム布施の郷
所在地	たつの市揖西町竹原1283番地 (電 話) 0791-64-8770
評価機関名	特定非営利活動法人 日本福祉文化研究センター
所在地	大阪市都島区友利町1丁目3-36-401
訪問調査日	平成20年3月29日

【情報提供票より】(平成20年3月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 10月 15日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	9 人
常勤 4人, 非常勤 7人, 常勤換算	4.46人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋建 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	40,000 円		その他の経費（月額）	15,000 円	
敷 金	無				
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 833 円		（月額25,000円）		

(4) 利用者の概要(3月 29日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護 1	0名	要介護 2	4名		
要介護 3	4名	要介護 4	0名		
要介護 5	1名	要支援 2	0名		
年齢	平均 81.66 歳	最低 71 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八十川医院・栗原医院・西田歯科医院・揖保川病院
---------	-------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

山陽自動車道龍野西インターから北へ車で5分の場所にあり、田園に囲まれた緑と新鮮な空気の中に建っている。隣接した竹原公民館は地域における交流の接点であり、グループホームは平屋で中庭があるため、明るく通風のよい施設となっている。入居者が書いた書道や俳画の作品が共用部に飾っており、和室の休憩コーナーも有効に活用されている。リビングテーブルには季節の花がさりげなく置かれていた。中庭にはツバメが巣を作って飛び交っており、全体的に、のどかで明るい雰囲気施設の施設である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	地域との交流は以前からも課題として捉えているが、閉鎖的な地域性もあり中々直接の交流は難しいようである。一方、外出に対する見守りや声かけ・挨拶など、徐々にではあるが施設として認知されてきている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 会議にて第三者評価についての取組みや報告をしている。今回の自己評価についても、個別にヒアリングしており、職員と意識を共有するための取組みはされている。今後は研修などを通じて、課題を抽出した具体的な取組みが期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議を活用するにあたり、市との連携が不可欠であり、現在の所よい環境が維持できている。当初に比べると、2ヶ月に一回の割で行われる内容についても、家族などからの意見も多くなってきており、近隣(老人会、自治会など)との交流も積極的に行われている。地域に密着した事業所としての位置づけが明確になってきており、継続的な取組みが評価できる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	年4回発行の「布施便り」を中心に、電話でのこまめな報告がされている。入居費の支払いは、直接施設に持ってくることを基本としており、家族との接点を増やす試みがされている。家族からの要望では、安全な環境を第一にしながら、本人の自主性を尊重した取組みに対する希望が出されており、施設側もその希望に沿った対応を心がけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	前回に比べ、地域との関係性が良くなっている。農村にありがちな閉鎖的・排他的な状況が改善され、挨拶や言葉がけなど、職員の日常的な取組みが評価できる。事業所への行事案内状なども増えてきており、地域の拠点として今後の取組みが期待される。

2. 第 三 者 評 価 報 告 書

第 三 者	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との関係性」を重視した地域密着型サービスとしての事業所の理念が確立されている。管理者以下職員は日常の業務を通じて常に事業所の理念を確認しながら、サービスを提供することに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者を含めた職員のミーティング等の日常の業務の中で、理念の確認と理念に基づくサービスの提供についての点検を繰り返し行う機会が積極的に設けられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の職員から積極的に地域の人々への交流に努めてきた結果、自治会長や老人会の会長が事業所に立ち寄る機会も増え、地域との結びつきが以前より強くなった。	○	現在、婦人会へは参加しておらず、今後の課題である。地域の行事については、今後よりいっそう積極的な参加が期待される。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の実施を事業所の課題を発見する機会ととらえている。評価結果を全職員にフィードバックし、地域密着型としてのサービス向上のため可能なことから一つ一つ具体的な改善に取り組んでいる。	○	今後の職員研修や勉強会など、積極的な取り組みが期待される。

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において評価結果の報告を行い、老人会会長等の事業所外の参加者からも積極的に意見が出されている。運営推進会議の開催によって、地域密着型をいっそう深めることができている。	○	利用者の家族に積極的に参加してもらえようになることが課題である。開催の時期を家族が参加しやすい日程など検討している。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	たつの市の担当者と気軽に行き来することができる環境が整えられており、報告や相談を通じて、事業所のサービスの質の向上のための連携が活発に行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「布施便り」を年4回発行し、行事やホーム全体の近況を伝えるとともに、体調を含めた各利用者の変化にはその都度電話等により密に連絡が取られている。金銭については、家族に対し毎月末に領収書を添えて出納状況が報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所のオーナーの意向で入居費は家族に持参してもらうことを原則としているため、その折に家族が積極的に意見等を述べることでできるよう配慮されている。家族からの意見はカンファレンス開催時に職員間にシェアされ、サービス提供に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職等による入れ替わりはあまりなく安定しているため、利用者への影響は少ないといえる。担当の職員が離職する際には可能な場合は理由を説明する等、利用者の状況を見た上でダメージを最小限に抑えることができるよう総合的な判断が行われている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、研修参加や資格取得等職員の育成に対して積極的に支援している。事業所内の研修については、できるだけ多くの職員が参加できるようカンファレンスの後に研修の時間を設ける等の配慮がなされている。また、他のホームで開催される研修についても各職員は積極的に参加している。	○	研修参加も業務の一環として捉えることにより、職員の負担を軽減することが今後の課題として期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	たつの市および相生市のグループホームの管理者による交流会に定期的に参加し、ネットワーク作りに取り組んでいる。各ホームの好事例や課題をシェアすることにより、事業所のサービスをあらためて点検するきっかけとしている。	○	今後は相互訪問の活動を積極的に展開していくことが期待される。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からヒアリングした利用者の生い立ちなどを参考に、利用者が無理なく馴染めるような働きかけを行っている。入所前に家庭訪問を行い、利用者の馴染みの生活をできるかぎり把握することに努めている。また利用者の負担を軽減するため、お試し期間を設けるなどの取り組みを行っている。		
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム全体に家族的な雰囲気が漂っていることが特徴的である。職員は利用者に対し人生の先輩として最大限の敬意と愛情を持って接しており、利用者も職員にねぎらいの言葉をかけるなど相互に安定した関係が築かれている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者のペースで思いを汲み取るように努めている。本人の意向を把握することが困難な場合には、家族の意見を参考に職員間で十分な協議を行い、対応している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	遠方からの入居者の場合、生活歴の把握などに配慮が必要であり、特別な理由などがある場合の対応では、本人の意思を尊重し徐々に慣れてもらうようにしている。家族へも強制はしない方針を説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	帰宅希望者に対しても早急にホームに慣れてもらうのではなく、時間をかけていることは評価でき、よい選択である。また、看護師と介護支援専門員の連携がよく出来ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	経営者の意向として、「終末期ケア」までの対応を行いたい、が、まだ体制が整っていないのが現状である。隣接するデイサービスを活用し、和室を団体のスペースとして有効に使っている。	○	家族との連携や情報交換により、さらにニーズの把握をする事が期待される。

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向に沿うように、其々のかかりつけ医への対応をしている。現在、定期的な往診などしていないが、出来る事なら専属の医師との連携を構築し、ターミナルへの対応も視野に入れた取り組みを目指している。	○	現在は家族の意向を踏まえ、個別対応をしているが、今後の方向性を家族と確認しながら進める事が期待される。
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族により希望の相違点があり、現状での終末期ケアに取り組むには難しい状況であるが、機会のあるごとに家族や本人との話し合いを設けている。今後、重度化が進み、ターミナルへの取り組み希望が増えると思われる。	○	施設面では浴室の改造が課題であり、特養への移行も順番待ちであるため、まずは重度化への対応が先決と思われる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護については、入所時に趣旨を個別に説明し契約している。日常における対応も、その人の生活歴に応じた穏やかな対応を心がけており、指示的な口調は避けるようにしている。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室は、洋室以外に一部和室もあり、ある程度の希望に沿った対応が出来ている。利用者が職員を選ぶ場合もあるが、限られた人数の中での対応であり、全てを満足させるのは中々難しい面がある。	○	家族からは「本人の自由にさせて欲しい」という意向があるが、出来る事と出来ない事を話し合い、理解してもらうことも必要と思われる。

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や片付けなども、利用者の人に喜んでしてもらっている。朝食は和食や洋食を組み合わせ、季節感のある料理や、行事に合わせた取組みがされている。個別の対応(きざみ食やお粥など)にも応じている。	○	職員による調理や細かな盛り付けなどは評価できる。今後、外食の機会を見つけるなどの取り組みが期待される。
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴設備は整っており、好きな時間帯にも入れるように対応している。最近、何人がADLの機能が低下する傾向が見られ、一人で入浴できない場合を考えると浴室設備の改善・充実も検討しなければいけない時期に来ている。	○	今後、シャワー浴での対応や福祉用具を活用した取組みが期待される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の個人の生活歴を尊重した支援がされている。書道や俳画などの習い事を生かすなど、それぞれの趣味や空間に配慮された取組みがされており、施設内を案内してくれた入居者の表情が印象的であった。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの森などへ散歩に出かけるときは、必ず付き添って出かけており、近隣の認識も出来てきている。月曜日にボランティアの協力により車で出かけたりするが、最近はトイレが近くなってきたりであまり遠方へは出かけていない。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄關に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の時間帯以外は、鍵をかけることはしていない。個室については、利用者に任せており、夜勤時間帯も休憩時間はあるが仮眠はしておらず、毎日の対応をしている。	○	施設の周辺に道路があるため、今後も徘徊などある利用者の安全確保が期待される。

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署の指導時に避難訓練を行い、地域の協力をお願いしている。マニュアル作成に着手予定であり、地域との連携を模索している。	○	台風や地震など、具体的な対応について運営推進協議会や地域の老人会との協議が期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時には入居者と共に食事をし、食事や水分の摂取について、きちんと記録されている。夜間に不眠傾向の人へ暖かい飲物の提供や嚥下対応にとりみをつけるなど、個々の状況を把握した対応が評価できる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングと居室の間に回廊式の中庭があり、ツバメが自由に飛び交う空間が全体的に明るく爽やかなイメージを演出している。食卓テーブルには職員が持ってきた季節の花などがさりげなく飾られており、花を写生している利用者も見受けられた。	○	建物の中央にある中庭は、施設の雰囲気を良い環境にしているので、さらに積極的な活用が期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はどの部屋も明るく、個人の好みに合わせて設えられている。個人が馴染みの品を持ち込む場合、家族の協力が不可欠であるが、わざわざ新しい品物を購入して持ち込まれる場合もある。		

 は、重点項目。

(様式3)

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営推進会議にて、自治会・老人会と交流を持ち、当グループホームの理念を含めた内容を説明している。	○ 婦人会・民生委員の方にも出席して頂き、理解してもらえるよう努力していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を記述した書類により、各自述べる事が出来る。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム便りを季刊発行している。2ヶ月に1度、運営推進会議と家族会を開催し、グループホームの説明をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に声かけや挨拶がある。畑でとれた野菜を持参して下さる。系列のディサービス開放時に説明を行い交流がはかられている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方から訪問があったり、行事に参加しやすいように案内状が届いている。	○ 案内状が届いたら、喜んで参加させてもらおうよう、今以上努力して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等で、いつでも立ち寄って頂くよう声かけしている。	○	ディサービスが、地域の公民館で演奏会を開かれる時、参加させてもらい地域の高齢者の方との交流をはかりたい。(すでに1度参加している。)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議にて報告しているが、どれだけ理解されているか。	○	職員への勉強会を開催して理解を深めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、常に報告している。意見をサービス向上に活かしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常に相談して、助言を受けている。来郷して下さる時もある。電話にも快く対応してもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しておられる方があり、少しは理解出来ているが十分とはいえない。	○	職員全員で学習出来る機会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内では常に指導に努め、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・職員のペアで入居者本人にも面談し、家人と十分話し合い医療機関とも面談し、十分把握するようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・各人のペースに合わせた日常生活の支援を行う。入居者の都合も聞き共に進めていく。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	便りを発行し、家族に送付している。電話での連絡を月に1度は詳細に行っている。月末には、家族に出納状況を報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランに全員が関わり、入居者に対する理解・責任感・協調性を探っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回(25日)カンファレンスにおいて意見交換を行う。カンファレンスの後毎月議題を決めて研修会を開いている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況に合わせたローテーションが組まれている。緊急時に対応できるように近隣の職員を確保している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を崩さないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベルに応じて研修を行っている。積極的に参加できるよう計画している。各研修には、積極的に参加している。		
20 ○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一回、近隣の管理者が集まり意見の交換・勉強会を行っている。	○	もっと意見の交換、相互訪問等をやって行きたい。
21 ○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年数会（2回以上）の親睦会を行い、ストレス解消やリフレッシュに役立てている。上司に相談したり話をする機会も設けている。	○	旅行等も計画中である。
22 ○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自が前向きに頑張れるよう働きかけはしているが、十分とはいえない。	○	話し合いをする機会を持つよう努力する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者の言動を否定せず合わせる様にし、誇りを損ねるような対応がない様工夫している。	
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の情報を最大に集め、入居された時は、十分話し合い満足のいく様努力している。	
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活暦に基づき趣味等を取り入れた計画を作成している。	
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来るだけ見守りの姿勢で対応し、出来ない事についてはさりげなく介助を行う。相手の目線に合わせ、穏やかにやさしい声かけ、言葉使いをする。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○ 利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	家族から生活暦や趣味・嗜好を聞き、理解し入居者のその人らしさを大切にし、日々の暮らしに活かしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族と共に参加出来る機会を作っているが毎回参加とはなっていない。誕生会等参加の連絡を入れている。	○	家族の理解を得て、実現出来る様にしていきたい。
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者により格差はあるが、どの家族も面会に来られるし、また電話もかかっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や行事などへの自由な参加などで、人と触れ合う機会を多く設ける様努力している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同作業が行える雰囲気・時間を作っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家人に対し、十分説明し納得された上で契約に基づいた手順をふみ、家族を支援できるよう行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
23. ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個室や共同生活の場があり、好きな時に自由に行き来し、生活しておられる。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	音楽が好きな入居者・手芸などが好きな入居者・習字の得意な入居者など、楽しく過ごせるよう支援している。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日の体調など考慮し、散歩や入浴、植物の世話など本人の希望に合わせて行っている。		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
26. ○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の生活歴に基づき、本人・家族の意見を尊重し、一人一人個性を把握し、具体的に介護計画を作成している。		
37. ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の希望や変化を詳細に把握しながらより密着した計画を作成する努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録・連絡帳により情報伝達を行い、入居者の状況を把握できる様にしている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々変化する入居者の細部の様子を報告し、家族様との関係をより良いものにするよう努力しているが十分とはいえない。	○	もっと家族様との関係を密にして信頼を得るよう努力して行きたい。
4.より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察・近くの派出所へ依頼・協力を求めている。		
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところは支援していません。	○	他のサービス事業者との連携が図れるよう働きかけていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議・その他で意見交換や指導を受けています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師による受診等、家人希望により行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院及び担当医を確保し助言等受けている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	元看護職のパート職員さんがおられ、適切な指導を受けて介護へ連携対応しています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後も積極的に家族の方と連帯を取り、早期退院にむけた取り組みを行っている。入院先にも様子を伺いにお見舞いに行っている。	○	以前より満足度が増している。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化について、お互いに話し合い、受け入れ体制等納得のいく方針を検討中。	○	今後、機会ある事に本人・家族様と話し合い、意思を尊重し検討をしていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームでの出来る事、出来ない事を現状から見極め、医療分野でないと出来ない事を説明し、家族様に理解して頂くよう努めます。	○	医療機関と連携を図れるよう努力したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院以外の退居はありません。ケア関係者間で十分な話し合いをするよう努めています。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1.その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	指示口調は行わない。作業時には、必ずお礼の声かけをしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	昔の唄を教えてもらったり、おふくろの味つけ・煮物など指導してもらっている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の性格・機能を重視し、一人一人が満足される様個別のケアに取り組んでいます。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	移動式美容院を利用したり、本人の希望により美容理容外出も行う。起床時必ず整容を行い、その人らしさが出る様工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感が出ている料理・誕生会・行事によって献立を工夫している。時には、キザミ食・お粥等対応も心がけている。		
55	○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫茶時、数種類の飲み物を用意し、入居者各自が選べる様にしている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者のパターンに合わせ、自立支援に向けて細やかな対応をしている。紙パンツ・下着等使い分けし、各自の状態をよく把握し、紙パンツからパンツに変更している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、バイタルチェックを行い、入浴前にも再チェックしている。また、好きな時間帯に一人で入浴出来るよう配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	職員と一緒に散歩したり、手伝い等日中活動のアップ、冷暖房で空調を行う。休息時には、声かけし話を聞いたり、飲み物を摂取したりする。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	人により出来る事が違うが、自発的に喜んでしてもらえる様支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物を気楽に言える雰囲気作りをしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設のディサービスでの喫茶・散歩・ドライブ等行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望により遠方の場合は、家族に協力を求め、近場の場合は外出時を利用して行っているが、実現されないのが多く不完全。	○	家族の理解も得て、実現出来る様にしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が設置されており、希望があればその都度介助にて行う。ホーム横に郵便ポストがあり利用している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間制限せず、いつでも訪問を受け入れ、好きな場所で過ごせるようにしている。お茶も利用されている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを行い。職員も充分認識している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝7時からB勤務者が帰宅するまで(20時)の間は、玄関の鍵はかけておりません。居室は、その利用者に任せています。(上記の間)	
67	○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	調理しながらもリビングの様子を見守っている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は、鍵のついたロッカーに保管し、洗剤は目にふれない様保管している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告者を作成し、改善策を話し合い再発を防ぐ努力を行っている。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応について、カンファレンスで話し合い、意識を高め勉強している。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署より指導を受け、年2回の避難訓練を行っています。運営推進会議で地域の方に協力をお願いしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている	本人の意思を尊重する時起こるリスクは、常に家 族様に理解頂けるよう努力はしています。	○	今以上に、説明し理解して頂けるよう努力した い。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を行っている。少しでも異常値 が出れば記録に残し、申し送りして再測定してい る。異変の早期発見に努めています。		
74	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副 作用、用法や用量について理解しており、 服薬の支援と症状の変化の確認に努めてい る	薬の説明書を全員理解し、医師の指示通り毎日2 名の職員により用量を確認し、服薬を行ってい る。		
75	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防 と対応のための飲食物の工夫や身体を動か す働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを出来るだけ行い。散歩・体操・食 事（繊維質の物・牛乳等）等で対応している。	○	9人中、4人がヨーグルトを毎晩摂取してもらっ ています。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じ た支援をしている	毎食前後、口をゆすぐ・うがい等の支援をしてい る。毎晩、義歯を預かりボリデントしています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量・水分の摂取量（喫茶時を含む） 朝・昼・夕それ以外の記録を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎食前、おやつ前に手洗い・うがい・消毒習慣を徹底している。	○	学習会又カンファレンスにおいて、レベルアップを目指し学習している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は、使用のつど熱処理を行っている。まな板は、週2回熱湯消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関回り・中庭の水遣り、ホーム内の草引き、洗濯干し・取入れ等協力して行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの各テーブルの上にも、季節の花を飾る様にしている。自然の光を取り入れる様にし、音量は心地よい様に気をつけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の談話室を用意し、テレビを見たり、カラオケをしたりしている。廊下に椅子を配置し、好きな場所で談話したり、くつろいだり出来るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の意思を尊重し、自宅で使い慣れている家具・食器（コップ）等持ち込んでもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節に応じて、快適に暮らせるようこまめに温度調整を行い、より良い環境づくりに努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内必要な箇所に手すりの設置、浴槽内すべり止めマット使用・手すりの位置・形状に配慮している。物干しの高さも低めにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	壁は、白色・ベージュを基本としている。陰になる部分を取り除いている。居室の扉の名札は、各自好みの飾り付けを行い違う色使いを工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にプランタンを置き、ねぎ・三つ葉・トマト・花を植え楽しんでいる。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

・サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある ○ 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族様と蜜に連絡を取り、利用者さんがより快適に暮らせるよう支援します。環境も良く（森林）散歩を多く取り入れ、気分転換を図り、健康管理をします。